

21世紀構想懇談会第五回会合発表資料

白石 隆 政策研究大学院大学学長

1

長い19世紀＝「19世紀文明」（カール・ポラニー）の時代

- ・ バランス・オブ・パワー、金本位制、自由主義国家、市場経済
ヨーロッパ中心の見方

- ・ アジア：集合的帝国主義と植民地支配の時代

1830年代以降、特に1870年代以降、東南アジアの植民地化進展

同時に、地域的には安定（植民地国家同士の戦争はない）

中国、19世紀末以降、集合的帝国主義

日本、「文明化」と富国強兵（欧州列強をモデルとした国民国家建設）

- ・ 「19世紀文明」のたそがれ：1914-15

バランス・オブ・パワーの破綻、金本位制の破綻、自由主義国家への挑戦、
市場経済の危機

- ・ ナショナリズムの台頭（帝国の危機）

東南アジア：フィリピン革命（1890年代）、東遊運動（1900年代）、

イスラム同盟（1910年代）・共産党蜂起（1920年代半）

中華ナショナリズム（19世紀末以降）

日本：帝国建設・集合的帝国主義の破壊

ナショナリズムと列強（持てる国）を同時に敵にする

2

大東亜戦争：アジアにおける「19世紀文明」の破壊

占領、現地自活、植民地経済の崩壊、動員と抵抗、敗北

「二軍」との戦争

第二・第三の植民地支配者

破壊の規模（フィリピンとビルマ）、抵抗の規模（マラヤ、フィリピン）

動員（義勇兵、兵補、労務者・・・）

経済の崩壊、社会的危機と社会的動員、政治経済社会危機の進展

3

「20世紀システム」の形成

- 二極体制：「社会主義」 vs. 「自由世界 (Free World)」
 - 「自由世界」：アメリカの平和、ドル本位制、自由民主主義国家、市場経済
 - アジア：アメリカの平和、ドル本位制、権威主義体制、開発主義
 - 日本：部分的例外
- 体制選択：上からの国家建設 vs. 下からの国家建設
 - 東南アジア：1950年代半ばから1970年代半ば (vs. 東アジア)
 - タイ(サリット)、インドネシア(スハルト)、シンガポール、マレーシア (NEP)、フィリピン (マルコス)
 - インドシナ (1975)
- 日本のアジア復帰：賠償から経済協力へ (1970年代の危機)
 - 日米同盟、福田ドクトリン (軍事大国にはならない)、開発主義モデル
 - 1980：中国 (29)、東南アジア (20)、インド (17)、韓国 (6)
米国 (263) 日米 (363) vs. その他 (72)
 - 1990：中国 (13)、東南アジア (11)、インド (10)、韓国 (7)
米国 (187) 日米 (287) vs. その他 (41)
- 冷戦終焉と日本
 - 中国：経済協力と世界経済への統合
 - インドシナ：和平と経済協力
 - なにが財産か：信頼

4

21世紀の世界 (2000 ➡ 2018)

- 新興国の台頭：G7 (66 ➡ 48) vs. 新興国 (20 ➡ 41)
 - インド・太平洋の台頭：北米・欧州 (60 ➡ 48) vs. インド太平洋 (26 ➡ 32)
 - 中国の台頭：4 ➡ 14 (日本 15 ➡ 6)
- グローバル化・地域化
 - 情報通信革命、GVCの拡大と深化、サービス化、アメリカ化
- なにが課題か：20世紀システムの進化
 - アメリカの平和+バランス・オブ・パワー (+グローバル課題対応)
 - グローバルな規範の趨勢をふくめたルール造り (マルティ vs. 帝國的)
 - 日本：
「修正主義」ではない、「修正主義」にはならない (歴史から学ぶこと)
 - 「21世紀システム」の構築に貢献し、その模範的メンバーとなる